

## 「インド洋津波の数値計算」ワークショップ報告

今村 文彦\*, 藤間 功司\*\*, 松本 浩幸\*\*\*

M9 の巨大地震により発生したインド洋大津波は、甚大な被害を生じさせただけでなく、発生機構に関しても新たな研究課題を出したと言える。土木学会の海岸工学委員会と地震工学委員会の合同小委員会である「津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会」では、2005 年秋から新たに「インド洋津波の数値計算」分科会を立ち上げた。本分科会では地震学分野の研究から得られたスマトラ島沖地震のメカニズムを考慮してインド洋各地の津波伝播計算を行い、各種実測データとの比較をもとにスマトラ沖地震の実像に迫ることを目的としている。今回のワークショップでは、各方面の数値計算の経過報告ならびに今後の研究方針等の議論を行います。ワークショップが、本分科会のアクティビティを一層高めるための情報交換の場となることを期待している。ここでは、3 月 22 日に開催されたワークショップでの話題を紹介し、その解析の方向性を整理したい。

1. 日時：2006 年 3 月 22 日 (水)  
10:00~17:00
2. 場所：海洋研究開発機構東京事務所（東京都港区） セミナー室  
<http://www.jamstec.go.jp/jamstec-j/access/tokyo/index.html>
3. プログラム  
10:00-10:10 趣旨説明  
10:10-10:40 松本浩幸（海洋研究開発機構）  
「インド洋津波の発生過程の再現計算および検潮記録の収集状況」  
10:40-11:10 奥村与志弘（京都大学）

\* 東北大学

\*\* 防衛大学校

\*\*\* 海洋研究開発機構

「震源断層の動的な特性が津波の外力特性に及ぼす影響」

11:10-11:40 藤井雄士郎（産業技術総合研究所）  
「津波波形記録と人工衛星データから求めた 2004 年スマトラアンダマン地震の津波波源モデル」

11:40-13:00 (ランチタイム)

13:00-13:30 松山昌史（電力中央研究所）  
「地震波解析結果に基づく断層モデルによる 2004 年スマトラ沖地震津波の解析～インドネシアとタイにおける津波高さ～」

13:30-14:00 越村俊一（東北大学）

「タイ西岸およびアチェの津波遡上計算」

14:00-14:30 富田孝史（港湾空港技術研究所）  
「スリランカにおけるインド洋津波の再現～スリランカ・ゴールにおける津波遡上～（中間報告）」

14:30-14:45 (ブレイク)

14:45-15:15 嶋原良典（防衛大学校）

「環礁島におけるインド洋津波の再現計算」  
15:15-15:45 原田賢治（人と防災未来センター）  
「インド南東部におけるインド洋津波の数値計算」

15:45-16:50 総合討論（ビジネスミーティング）  
各方面の計算結果や今後の研究戦略などを議論  
16:50-17:00 閉会の挨拶

ワークショップにより得られた津波解析の初期モデルの考え方

初期モデルは、東北大モデル（越村・大家モデルの 6 枚断層）ならびに地震学モデル（添付の Ammon）とする。

東北大モデルの破壊伝播速度は、1km/s、2.5km/s の 2 通りを計算する。地震学モデルは、2.0km/s 程度で既に決まっているはず。これらをスタートとして、各方面の実測を合

わせるために修正するのは可。ただし、Jason1 を満たすことは必要条件とする。水深データは、GEBCO1min (2min) を用いる。

検潮記録については、松本からコメントを出す。また、各国の検潮記録の収集状況につ

いては、岩崎さん (NIED) からコメントをもらう。

遡上データについては、藤間先生からコメント。IUGG から各国の遡上高をまとめたものが 6 月に publish される。